

廃棄物からレアメタル回収 種類別に「流れ」構築

リチウムイオン電池や液晶パネル、切削工具など至る所で使われるレアメタル(希少金属)。その資源確保が叫ばれる中、廃棄物からレアメタルを

回収・再資源化するシステムの確立を目指して、中部圏の企業や大学で組織する研究会が2010年12月に発足した。

研究会の会長は伊藤秀章名古屋大学名誉教授。岐阜県内のベンチャー企業、シーエムシー技術開発(岐阜県各務原市)が事務局を運営している。すでに県内のセラミック関連企業やエンジニアリング企業などを含め中部圏などの企業や大学、公的研究機関、研究者など合計75社・団体・個人が参加している。

伊藤教授は廃棄物を高温・高圧処理して、廃家電や産業廃棄物、工場の廃水からレアメタルを取り出す水熱分解処理技術を実験室レベルで実証している。研究会ではこの技術を核にイオン交換などさまざまな要素技術を組み合わせ、低コスト・低エネルギーで高効率に再資源化する仕組みの実用化を目指す。

5月下旬にも廃棄物の種類や取り出すレアメタルの種類別に分科会を設立。参加企業や研究者らの技術を活用し、分野別に回収・再資源化・再利用の流れを構築する。中部圏の立地を念頭にレアメタル資源再生コンピニートの基本計画を11年中に立案し、産学官の技術研究組合の設立を検討する。